



No.72
 2026.3.19
 発行；特定非営利活動法人
 所沢市学童クラブの会
 広報委員会
 所沢市くすのき台2-20-6
 Tel；04-2994-6753

卒所おめでとう ~学童はどんな場所だった?~

三月、学童から巣立つ子どもたち。六年生に、これまで学童保育所で過ごした日々を振りかえってもらい、思い出を書いて、きかせてもらいました。

若狭学童クラブ

〇やんやん

私は、学童に行くのが楽しみでした。なぜなら、他の学年の子とも遊べるからです。

おにごっこやカードゲームをしたのりして、とても楽しかったです。夏休みには、みんなでお弁当を食べたり、ポケモンカードをして遊んだのも、いい思い出です。

〇ひんやん

小学三年生のとき、ひっこしてきて、若狭学童クラブに、やってきました。

うるさい学童だと思いました。意外と良い学童だと思いました。色んな人が仲よくなはなしかけてくれました。

〇ひんやん

若狭学童は、学校から帰った

とき、夏休みや冬休み、春休みにいついて、そこで友達や指導員さんとぼくは、トランプやしょうぎ、野球をして遊びました。

若狭学童は居心地がいいし、あたたかくて家のような存在です。

六年間とても楽しかったです。

〇やんやん

四年生の時に入ってきたとき、

緑町三丁目学童保育所

六年生インタビュー

緑町の六年生は三名です。インタビューは指導員の金子です！

「学童が良かったおやじは？」

・誕生日のリクエストおやつ
 その中ではスーパークップ

あまり友達や知り合いがいなかったの少し不安がありました。けれど、月日が流れていくにつれて、元々学童に居た子達とも仲良くなってきて少しずつなれてきました。

そして一年経ったころ、学校の友達も入ってきて本格的に楽しくなってきました。

そして六年生の今、この学童に入ってた良かったなと思いました。

(アイス)・おにぎり・いもち

「学童の行事で楽しかったのは？」
 ・買い物おやつ、ハロウィンイベント↑マクドナルドに買い物に行った事

「印象に残っているのは？」
 アイスを作ろうとしたときに、

「学童の思い出なんでも」
 ・金子に怒られたこと
 ・ペー「ママが強くなったこと」
 ・三人(六年生、五年生、三年生)で夏休みさよならパーティーで漫才をしたこと

〇ひまりさん

最初は、仲良くできるかが、不安がいっぱいで、怖かったけど、なかよし学童の友達や知りあいがたくさんいて安心しました。楽しい遊びがたくさんあって、すごいと思いました。けど、知らない遊びもあったけど楽しく過ごせて、幸せでした。



・ワンピース百十巻をブックオフで買って運んだこと！二名(おれ運んでない！一名)
 ・六年生のさよなら遠足が楽しみ
 以上緑町六年生のインタビューでした！

林学童クラブ

てるはさん

六年間通い続けてこんなにたくさん楽しいことがありました。

指導員とノリツッコミ楽しかった。

がくん、ひさしくん、せなくん、あおいくん、はなて(弟)とラキュー(※)やっ

て楽しかった。じょうくん、さくくん、みなとくんたちと一緒においごっこ楽しかった。

ゆうまくんと将棋、楽しかった。勝てなかったけどでも楽しかった。

嫌だったこともちょっとあったけど、楽しかった。



中学に行ってもがんばります。

せいたさん

おやつをいっぱい食べました。勉強しました。そして寝ました。

学童は楽しかったです。

中学に行ったらがんばります。

ゆうまさん

学童はうるさかった。本当につるさい人ばかりでした。

並木学童クラブ

「学童で好きだったおやつは？」

は？

なおきさん「オレオ、チョコ全部。フランクフルトと肉巻きおにぎり」

ゆきやさん「肉巻きおにぎりだな」

はるさん「肉巻きおにぎりのいや、おにぎりの」

「学童の行事でたのしかったのは？」

なおきさん「みどり町との野球」

ゆきやさん・はるさん「これからやる卒所式」中田「それは楽しみなことなんじゃない

虫とり、水あそび、おいごっこ、楽しかったです。

下の子たちが頼りにしてくれました。うれしかったです。だから通い続けました。

中学に行ったらバスケットに入りがんばります。

※ラキューは、いろいろな形の小さなパーツを組み合わせて、動物や乗り物などを自由に作って遊ぶブロック玩具です。

の？

ゆきやさん・はるさん「それでもこれ(卒所式)」

「印象に残っているのは？」

なおきさん「野球」

ゆきやさん「K先輩と遊んだこと」

はるさん「去年の卒所式」

「学童の思い出なんでも」

なおきさん・はるさん「卒所式」中田「卒所式楽しみにしてあげよう」なおきさん・はるさん「フット」

ゆきやさん「野球をしてホームランで中学校まで飛ばして入れちゃったこと」

並木学童では、毎年お世話

がくどん食堂開催



今年度、学童クラブの会の地域の会の一環として、緑

町三丁目学童保育所で「がくどん食堂(こども食堂)」を行っています。

今回で三回目ですが、限定三十食のところ、二十七名の方の参加がありました。この日のメニューはカレーでした。お腹がいっぱいになったあとは、学童であそぶこともできます。カードゲームやボードゲームを親子で楽しんだり、ブロックや折り紙であそんだり、マンガに夢中になっている子も。みなさん、思い思いに過ごしていました。

またこの日は、「ベーゴマであそぼう」というイベントも開催したため、親子でベーゴマを楽しむ様子もみられました。

になった六年生を送り出す「卒所式」を、子どもたちが企画して行っています。その「卒所式」をとてもとても楽しみにしている六年生です。

した。これから、定期的に開催していきたいので、ぜひあそびに来てください。



「ねえ、きいて」～子どもの声～ 生活づくり編

林学童クラブ

「俺とこいつが同じ班になったら、うるさくなると思うから、離れたほうがいいよ」と、真剣な表情で提案したのは、新班長として班員を決める話し合いのそんだ四年生の男の子でした。林学童ではおやつ時間を六つ

の班に分かれて過ごしていて、三学期前からは、六人の四年生が新班長を担っています。一年生から六年生まで、全員の割り振りも「新しい関係が広がるように」と、班長たちと一緒に考えます。

学校でのクジ引きの席替えとは違い、自分たちで班のメンバーを決められるということとは、やろつと思えば、自分と仲のよい友だちを固めて同じ班にすることも難しくありません。しかし、そうすれば

「班長だけするい」と言われてしまうかもしれません。班替えの結果を待つ全員が公平に満足する「なかよし班をつくる」のが困難なことも大きいですが、学童だからこそその「新たな交流を作る」という選択肢が生まれ、班長たちが



その意図を理解して真剣に話し合ってくれたことに頼もしさを感じます。

新しい班になって数カ月、おやつ時間は学年の壁を越えたコミュニケーションが広がる時間になっています。



の駒も落ちるときある」と、レゴ以外の片づけについても、次々と意見が出てきました。

なかなか改善策が見つかられずにいると、四年生の男の子が「だったら、掃除の班の休みのところに片づけ係みたいなを作ったら？」と提案してくれりと、みんなも「それいいかも！」と賛成の声がありました。おやつ後の掃除の時間に、棚を整えたり、落とし物や片づけきれいでない物がなにか確認してくれる係ができました。

これからも子どもたちの声を大切にしながら、よりよい生活づくりを進めていきたいと思えます。



じろにゃんクラブ

「ゴロニャンクラブでは、日々生活している中で困ったことや気になったことがあったときには、話し合いの場を設けるようにしています。

毎週末、レゴやラキューで作った作品は解体して帰るルールがあるのですが、片づけの時間に作品が残っている状況が続いていました。いつも片づけを手伝ってくれていた三

年生の男の子が「自分は遊んでないんだけどなあ…」と、言いながらレゴを解体していました。その一言をきっかけに、みんなで話し合いをすることに。

話し合いを始めると、「リセットの曜日を変えたらいいんじゃない?」「落ちてたら大人に預かってもらう」などという意見が出てきました。また、「本がしまっていないときあるよね」「ボードゲーム



学童クラブの会

施設紹介

椿峰学童クラブ

椿峰学童クラブは椿峰小学校の中にあります。元々教室だった部屋を改装してもらいました。ロッカーや本棚、下駄箱など、木を使った内装が特徴です。南側に面しているので、たいようクラブの名の通り、ほかほか陽気を感じる過ごしやすい環境となっています。

現在の在籍児童は六十三名。隣の学習室は学校と共用ではありますが、放課後は自由に使えるので、上級生が帰ってくるま

での時間の宿題だったり、おやつを食べたり、ベーゴマやけん玉など動きのある遊びをしたりして過ごしています。外遊びの時間になると、校庭で思いっきり遊びます。鬼ごっこ、野球、サッカー、バスケ、ドッチボール、大縄など、学童の仲間同士はもちろ



ん、地域の子も混ざって遊びの輪が広がりがやることが、学校の強みです。たいようクラブは生活班があります。おやつは班長さんが中心となり、配膳や片づけも自分たちで行います。おかわりがあるときは前に出てじゃけんをしたり、子どもたち

だけで進められる時間となっています。毎週金曜日は掃除を行ったり、イベント関係も班長さんと相談して、企画を進めていく等、子どもたちと共に生活を作ること大切にしているクラブです。



編集後記

一年の間にはさまざまな出来事があり、とても充実した一年だったにもかかわらず、思い返すこの時期になると「あっという間だったなあ…」と感じてしまいます。

次の一年に向けて取り組んでいる子どもたちがいる中、私も並木学童クラブに来てまもなく一年が経つとしています。今は、「新しく来た人」から「並木学童の指導員」として、みんなの輪に入り、新年度を迎えられる気がしています。

今回の広報では、学童で過ごした思い出を振り返り、どんな体験や楽しみがあったのかを六年生の子どもたちが語り、綴ってくれた内容を皆様にお届けします。

実は、並木学童のインタビューでは、三月十九日に行う卒所式に向けて学童全体が準備を進めているところもあり、インタビューの回答のほとんどが「卒所式」に関する内容となってしまいました。しかし、それだけみんなが卒所式を楽しみにしてくれているのだと思い、「もっと良いものになりたい」という気持ちで取り組んでいます。

(中田)

かぐきどうマンガ

